



お葬式を家族のものに。
家族葬のファミーユ

報道関係者各位

平成 30 年 7 月 19 日
株式会社家族葬のファミーユ

千葉・村上駅前ホールで『遺影写真撮影会』開催 参加は募集人数の約 2 倍

終活で気になるのは財産分配よりも遺影？

思い出の品を身につけて“らしさ”を全面に 家族との絆を再確認

葬祭式場を全国で運営する株式会社家族葬のファミーユ（本社：東京都港区、代表取締役社長：中道 康彰）は、2018 年 7 月 5 日に千葉・村上駅前ホールにて『遺影写真撮影会』を開催しました。本イベントは先着 25 名で募集をしたところ定員を大幅に超える 48 名の応募があり、応募者全員に参加してもらい大盛況でした。

当社は故人との最後の時を家族が後悔なく過ごすことができるよう「お葬式を家族のものに」という考えのもと真心を込めた『家族葬』を提案しており、全国 68 の直営ホールと 1,000 以上の斎場とネットワークを構築して展開しています。

■終活の一環としての参加。自身の葬儀の際の家族への配慮



『遺影写真撮影会』は千葉エリアの 12 ホールでは 3 年前から無料で開催しています。開始当初は定員に満たないこともありましたが、参加者は年々増加しており、回を重ねるうちに参加者の口コミなどで広がっていき、どのホールでも今では毎回定員オーバーの盛況ぶりです。

遺影の準備は、当社が以前実施したアンケートでは 26%の方が「気になる」と答え、財産相続（3%）を大幅に上回る結果でした。

本撮影会は終活の一環として人気があり、参加者のメインは 70 代です。参加の動機としては参加者自身が参列した葬儀などで、キレイに撮られていない遺影を見る機会があったことや、身内の葬儀で遺影を探すのに苦労した経験があったため、予め用意しておけば残された家族に負担を掛けなくて済むという声が多く聞かれます。実際、遺影は亡くなる 10 年以内のものを使用することが多いのですが、家族が苦労して探した結果、顔がはっきり写っていなかったり、集合写真だったりするケースも少なくないのです。

■笑顔、好きな服、お気に入りの装飾品・・・遺影写真の新しいカタチ

参加者のほとんどは、これまで写真館などでちゃんと撮影してもらった経験がなく、初めはやや緊張気味です。しかし、プロのカメラマンがリラックスさせることで、次第に参加者の表情もやわらいだものに。昔は黒い服で真面目な表情で撮るとというのが遺影写真撮影の通例でしたが、現在では好きな服を着てもらい、歯を見せて笑っている表情も撮影します。撮影後は葬儀の経験が豊富な当社スタッフと一緒に写真を選びます。「こちらの写真の表情がいいですね」と、スタッフとコミュニケーション





ーションをとりながら和気藹々（あいあい）とした雰囲気の中で行っています。遺影写真の撮影だからと肩ひじ張らずに普通の記念写真を撮ってもらう感覚で、純粋に楽しんで参加している方が多いのが特長です。また、事前に連絡をして、アクセサリなどワンポイントになる思い出の品を身につけて来てもらい、その人らしさが全面に出る写真になるよう心掛けています。写真を見た周囲の方が亡くなられた後に故人のことをより深く思い出すきっかけになるからです。

＜お渡ししている遺影の一例＞※会場により異なる場合があります。

■ “家族葬”を知って、家族や周囲の方との良い関係を築く機会に

撮影会を体験して、「遺影写真は代々残っていくものだから、生前に会うことができなかった孫やひ孫など残った家族にも自分のキレイな写真を見てもらえる準備ができて良かった」と多くの参加者が満足して帰られます。大きな祭壇用の遺影写真だけでなく、仏壇に置くスナップ写真サイズやデジタルデータを渡すこともあり、普段から家族の目に触れやすい写真だからこそちゃんとしたものを残しておくことが望ましいと考えています。

撮影会後に早々と葬儀の予約をお願いされるケースもありますが、当社が撮影会を行う目的は、何より当社が展開する“家族葬”について理解してもらうことです。撮影した遺影写真を家族で見ることにより、家族の会話が生まれるきっかけになります。ひとりで参加するよりも、家族や友人と一緒に参加することでリラックスした中で撮影が行え、家族や身近な人との絆を深める場にもなっています。実際に夫婦での参加は全体の1/3ほどあり、記念にツーショットの写真をもろう夫婦もいます。近年話題の終活、まず何かからとりかかればいいかわからない方は、気軽にできるものとして遺影写真の準備から始めてみてはいかがでしょうか。

【会社概要】

【名 称】 株式会社家族葬のファミリー

【設 立】 2000年7月

【代表取締役社長】 中道 康彰

【住 所】 〒108-0014 東京都港区芝 4-5-10 ユニゾ芝四丁目ビル 7階

【連 絡 先】 TEL 03-5427-6438（代表）／FAX 03-5427-6433（代表）

【従業員数】 354名（2017年6月現在）

【資 本 金】 1億円

【売 上】 64億5千万円

【事業内容】 葬儀葬祭に関する一切の業務

フランチャイズシステムによる葬儀葬祭事業の展開

「お葬式を家族のものに」のスローガンのもと、1日1組限定の「家族葬のファミリー」

及び邸宅型家族葬の「弔家の灯」を提供

これまでの葬儀の価値観にない「家族の意向を汲んだ、家族のための家族葬」を提供

【U R L】 <https://www.famille-kazokusou.com/>

＜報道関係者お問い合わせ先＞

株式会社家族葬のファミリー 広報事務局

TEL：03-5411-0066 FAX：03-3401-7788 E-mail：pr@netamoto.co.jp

担当：橋本（携帯：080-9874-4856）

参考資料

ファミリーの家族葬とは

大切な方を失い、深い悲しみの中にあるご家族に、ゆっくりお見送りしていただける時間と空間を提供したい—そんな想いから私たちは、業界で初めて「家族葬」をブランド化しました。それが「家族葬のファミリー」の始まりです。

現在、「家族葬」という言葉も世の中に知られることとなりましたが、「格安葬」「直葬」「一日葬」など費用を抑えた小規模な葬儀というイメージも定着しているようです。ただ、当社ではこのブランドを掲げた当初から変わらず、故人様のことについて専属のスタッフがじっくり丁寧にお話を伺い、故人様にふさわしい、故人様らしいご葬儀をご提案しております。ご家族の意向を汲んだ、ご家族を主役とするご葬儀を「家族葬」と考え、ご家族に寄り添いながら、心のこもった悔いのないご葬儀を心がけています。

ご家族や親しい人々が故人様を囲んで「思い出」を振り返り、自然に湧き上がってくる「感謝」の気持ちを伝え、故人様が懸命に生きてこられた「証」を記憶に刻む、そしてそのプロセスで新たに生まれる「家族の絆」が、深い悲しみを癒す一助となるようなご葬儀こそ真の家族葬と考えます。

邸宅型家族葬会館「弔家の灯（とむりえのひ）」

「最後の時間を家族でゆっくりと過ごす」ことに重きをおき、家族葬を再定義した、邸宅型家族葬会館です。弔家の灯は民家を改装もしくは新築しているので邸宅そのものです。葬儀をするための場所ではなく、故人様とゆっくり過ごすための場所です。



故人様とご家族様の想いを形に

ご家族様に故人様のこと、故人様との思い出などを語っていただくなかで感じた、あふれる想いをお見送りの場で表現させていただいた、唯一無二の温かいご葬儀の例を紹介します。

【アウトドアが好きだった故人様の想いを形に】



ご家族揃って、よく出かけたというアウトドアシーンを式場の一部に再現。バーベキューセット・飯盒などのアイテムやライティングにもこだわり、思い出のひとときにもう一度ひたっていただきました。

【生きていた証を年表に】



ご家族の方にお伺いしたお話をもとにスタッフがあしあと年表を作成。ご家族やご友人の方々に短冊やカードをお渡しして、想いや思い出をつづっていただき、唯一無二の年表ができあがりました。

【ゴルフ好きな故人様の想いを形に】



ゴルフが趣味だったという故人様が実際に使われていた道具を飾り、ゴルフが体験できるスペースも配置。故人様がお気に入りだったスイング写真は、ひきのばしてメモリアルコーナーの中心に。たくさんのお写真をお持ちでしたので、花をあしらったり、リボンをつけて木につるしたりと工夫しました。

【スイーツが好きだった故人様とのお茶会を】



体を気遣って、大好きなスイーツを我慢していたという話を多く聞きます。最後のときには、大好きだったお菓子をふんだんにご用意し、参列した方々、お孫さんにも一緒に楽しんでいただきました。